

平成 25 年度 志布志市の財務諸表

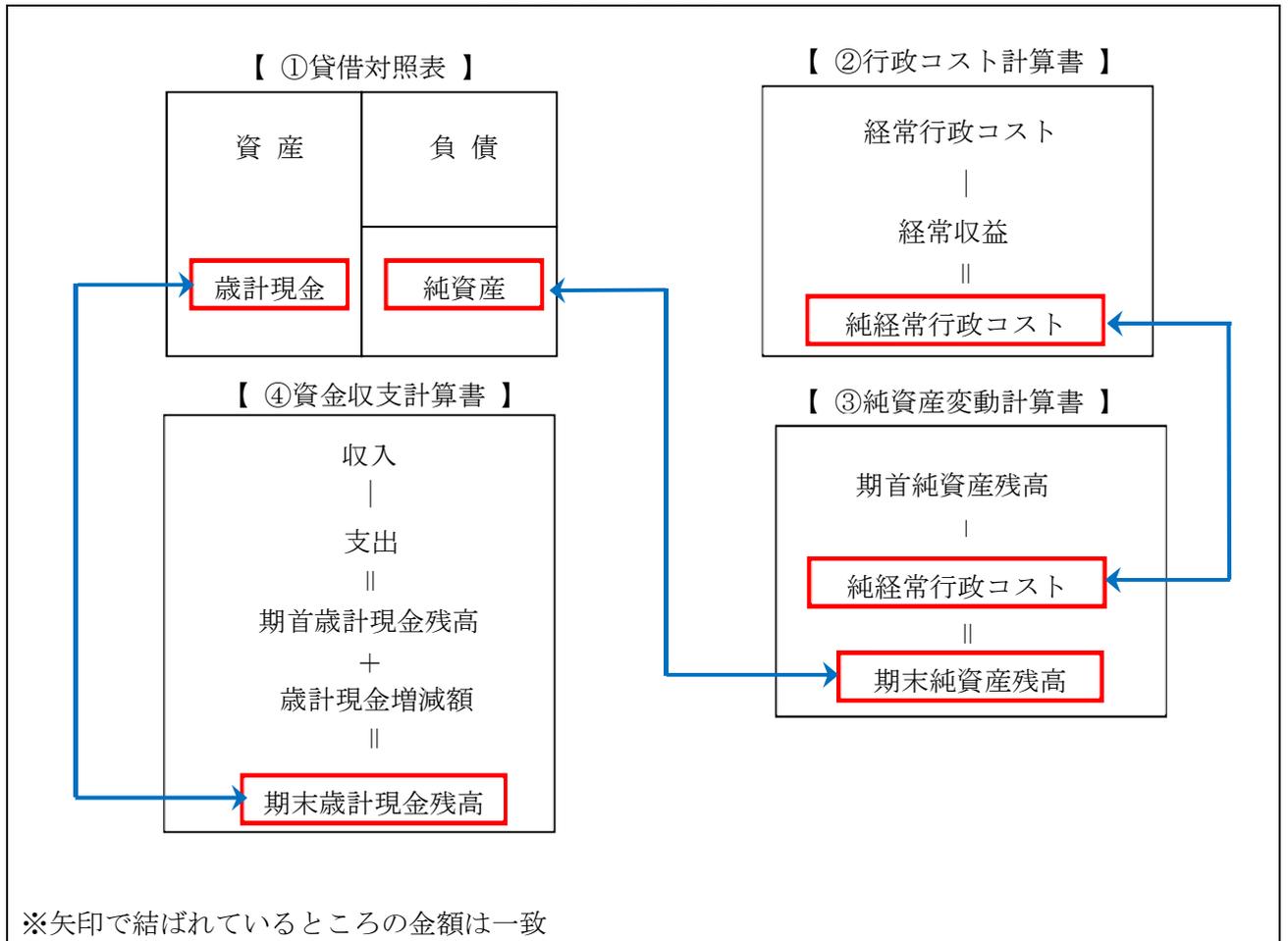


財務諸表とは？

以下の4表を表したものが財務諸表と呼ばれ、財政状況評価のための情報でもあります。

- ① 資産や負債の状況などを表す「貸借対照表」
- ② 人件費や減価償却費などの経費を表す「行政コスト計算書」
- ③ 純資産の一年間の変動内容を表す「純資産変動計算書」
- ④ 資金収支の状況を性質別に3つの区分に表す「資金収支計算書」

《財務書類4表の関係》





純資産変動計算書とは？

当該年度の期首と期末でどのような変動要因があったのかを、確認するものです。
これまでの世代が負担してきた部分について1年間の増減を把握できます。

(単位：千円)

前年度末の残高	42,100,794
純経常行政コスト	△15,585,739
一般財源（税・地方交付税・補助金等）	15,619,612
臨時損益（災害復旧費・損失補償等引当金繰入等）	△28,959
当年度末の残高	42,105,708

純資産が前年度よりも増加した場合：負債の増加より資産の増加のほうが多かった事を示しています。

純資産が前年度よりも減少した場合：行政コストが多くかかっていたり、資産の増加より負債の増加が多かった事を示しています。



資金収支計算書とは？

貸借対照表の現金が1年間でどのように変化したのかを表しています。現金の使いみちによって3つの区分に分け、どのような行政活動にいくら使ったのかが分かります。

(単位：千円)

前年度末の残高	466,557
経常的収支	3,764,172
公共資産整備収支	△942,901
投資・財務的収支	△2,764,168
当年度の増減額	57,103
当年度末の残高	523,660

支出：人件費や物件費など
収入：税収入など

道路や施設の取得のために支出した金額とその財源となった公債や補助金

支出：基金への積立金や公債の償還額
収入：公債費、貸付金の回収額等



行政コスト計算書とは？

行政サービスを提供する際に発生する支出のうち、資産の取得（土地や建物の購入等）にかからない支出と、行政サービスの対価として得られた収入を計上しています。

職員給与のほかに、賞与引当金や退職手当引当金の繰入金が計上

移転費用には社会保障給付や他会計等への繰出金当が計上

区分	金額
経常費用	15,995,634
人件費	2,839,430
物件費等	4,638,721
移転費用	8,256,751
その他の業務費用	260,732
経常収益	409,895
使用料・手数料	150,980
分担金・負担金・寄附金	258,915
純経常行政コスト	15,585,739

物件費のほかに、施設の維持補修費や減価償却費が計上

その他の業務費用には支払利息等が計上



財務諸表から分かることは？

1. 資産形成度（資産がどのくらいあるか） 【貸借対照表 資産合計／H25.3.31 住民基本台帳人口（33,232人）】
市民1人あたりの資産額（千円）
H24：2,146 H25：2,155（9千円の増）【改善】
2. 持続可能性（どれくらい借金があるか） 【貸借対照表 負債合計／H26.3.31 住民基本台帳人口（33,232人）】
市民1人あたりの負債額（千円）
H24：887 H25：888（1千円の増）【悪化】
3. 効率性（行政サービスは効率的に提供されているか）【行政コスト純経常費用（純経常行政コスト）／ H26.3.31 住民基本台帳人口（33,232人）】
市民1人あたりの行政コスト（千円）
H24：485 H25：469（16千円の減）【改善】
4. 弾力性（資産形成を行う余裕はどれくらいか） 【貸借対照表 流動資産 / 流動負債 × 100】
流動比率（%）
H24：127.5 H25：135.3（7.8%の増）【改善】
5. 自立性 【行政コスト計算書 経常収益 / 経常行政コスト × 100】
受益者負担比率（%）
H24：2.5 H25：2.6（1%の増）【改善】